

2021 年度第 2 回価格審査会の開催について

2021 年度第 2 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2021 年 5 月 13 日(木) ~17 日 (月)	
場 所	新型コロナウイルスへの感染防止策が引き続き必要とされていることから、上記期間中のメール会議とした	
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長
	鈴木 孝之	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 工事予算計画室 室長
	鈴木 由香	株式会社日本設計 コスト設計部長
	辻 保人	一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長
	橋本 雅宏	東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：康広 誠己
	建築調査部	部長：高橋 俊一、次長：渡辺 弘一
	監査審査室	室長：今井 豊
	調査統括部(事務局)	部長：神田 尚昭、課長：菊池 信博

2021 年度第 1 価格審査会議事録(案) 確認

2021 年度第 2 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1. 「建設物価」6月号、「Web 建設物価」6月号の価格動向	
・価格が上伸した資材（工事費）	
【Web 建設物価】	
月積み契約分鉄鋼販売価格 形鋼、鋼矢板、鋼管、鋼板（全国）、平鋼(全都市)、H形鋼、等辺山形鋼、溝形鋼（九州を除く各都市）、リップ溝形鋼(福岡、那覇除く各都市)、鋼板（全都市）、切板（全都市）、コラム(福岡除く各都市)、特殊鋼(全都市)、亜鉛めっき鋼板(全地区)、線材製品(北海道、関東、北陸除く各地区)、レディーミクストコンクリート（松戸、柏、伊勢）、仮設・土木用木材(全都市)、一般建築用木材(全都市)、北海道地区木材、沖縄地区木材、コンクリート型枠用合板（全都市）、普通合板(全都市)、IV電線(全地区)、ストレートアスファルト(那覇)、鉄スクラップ(全都市)、銅スクラップ(全都市)など	
・価格が下落した資材（工事費）	
【Web 建設物価】	
燃料油:軽油（北海道の各都市）、亜鉛スクラップ(東京)など	
2. 比較資料	
・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。	

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	上伸・下落が混在する「バルブボックス」と「排水金具・トラップ」は、対象とする都市名称及びコメントが全く同一である。この2帯の価格変動は、全く同じ市場で生じているということか。	バルブボックス(建物外)と排水金具(建物内)の違いはあるが、調査対象者は同一のため、同じ市場である。
質問 2	非鉄スクラップは、「銅」「鉛」「アルミ」「亜鉛」などがある。「銅」の建値はこの約1年上伸続きであるが、他の「鉛」「アルミ」「亜鉛」などの建値は同じような状況か。「銅」と同様に上伸を続けている状況なのか。また、今月は東京都23区の「亜鉛」は下落しているが、これは「亜鉛」の建値が下落したためか。それとも東京都23区の何か特別な事情があるのか。	この1年間、アルミの建値は上昇傾向が続いている。鉛と亜鉛の建値も一時下落した時期があったが全体としては緩やかな上昇傾向が見られる。東京地区の亜鉛が今月下旬下落したのは、建値の下落に製品メーカーと問屋筋が反応したためである。
質問 3	ヒューム管類は、メーカーの値上げが浸透し上伸とあるが、金沢地区で軒並み上伸となっている背景は何か。	今月上旬した新潟、富山、金沢地区の推進管およびヒューム管は、全て同じメーカーが供給している。メーカーが輸送コスト増などを理由として打ち出した値上げが浸透し、上伸した。工場からの距離が遠い金沢地区では、輸送コスト増の影響が大きく、他の2地区より上伸額が大きかった。
質問 4	測量成果品検定料金で、【電子基準点現地調査 高低観測あり、3級水準測量 GNSS】と【電子基準点現地調査 高低観測なし、1・2級基準測量 電子基準点のみ】の相反する変動(専門業者の値上げ・値下げ)の背景は何か。	測量成果品検定を行う検定機関は、これまでの取引価格とコスト(原価)から規格ごとの採算を割り出し、次年度の検定料金を決めている。採算の低い規格を値上げし、高い規格を値下げしたため、規格によって相反する変動となった。
質問 5	一般建築用木材で、木材不足は昨年からは始まっていたと思われるが、今まで価格変動はなかったのか。今後の見通しを教えてください。	輸入木材の不足は前年末に表面化し、輸入価格の上伸が徐々に浸透した結果、2021年4月号にて上伸。その後、現地高と仕入れ不足が深刻化。代替品として期待された国産材も需給がひっ迫したため、輸入木材、国産木材ともに2021年6月号にて上伸となった。輸入木材の供給が早急に回復することは期待できず、先行きも強含みで推移する見込み。

質問 6	スパイラルフープで、一部エリアで流通が少なく掲載がなくなっているが、価格調査ができないほど少ないのか。九州では丸型はほとんど流通していないのか。	角形、丸形ともスパイラルフープは、全国的に流通量が減少傾向にある。特に、近畿から九州地区の丸形では、その傾向が顕著で、価格決定が困難な状況となり、今月「・・・」となった。
質問 7	H 形鋼が他の地区で続伸している中、九州地区だけが上伸しなかった理由は何か。	今月上伸した地区と同様に、九州地区でも流通各社と需要家の間で値上げ交渉が行われている。しかし、当該地区の需給バランス、売り手の販売姿勢や買い手の購入姿勢、これまでの価格水準などにより、値上げの浸透が一部にとどまり、今月横ばいとなった。
質問 8	人工軽量骨材の上伸理由が「一部メーカーの生産中止による販売店の値上げが浸透し、上伸。」とあるが、上伸した地区が関西に集中している理由は何か。	人工軽量骨材は、供給メーカーが元々 2 社しかなく、このうち 1 社が 3 月末で生産を中止した。この生産を中止したメーカーが主に供給していた近畿地区では、供給メーカーがもう 1 社に切り替わったことで輸送コストが増し、今月上伸した。
質問 9	鉄筋コンクリート台付管で、「最大変動率 25.5%は、重圧管 350×2,000mm が 18,400 円→23,100 円に上伸したことによる。」とあるが、この重圧管の価格は全国一律なのか、または特定の地区での価格なのか。	今月上伸したのは山口地区だけで、資料に記載した価格は山口地区の価格である。
質問 10	異形棒鋼で、「商才が盛り上がりを欠くなか、メーカーと流通筋は値上げ未達分の浸透を目指し強腰の姿勢を維持。目先、強含みの公算が大きい。」とあるが、これまで需要が多かった時期に値上げをせず、なぜ、この時期に値上げをすることになったのか。	東京地区では、ここ 2 年ほど需要が盛り上がりを欠いているが、メーカーは昨年夏以降の鉄スクラップ価格上昇を背景に値上げしている。東京地区の鉄スクラップ価格は、2020 年 6 月号と比ベトン当たり 23,000 円上昇しており、メーカーはコスト増分の転嫁値上げに取り組んでいる。
審議結果	「建設物価」6月号、「Web 建設物価」	6月号の価格動向に問題はなかった。

以 上